

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成 30 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		公共下水道整備事業				②事業番号		6312									
③事業類型		5. 普通建設事業		④開始年度		昭和 62 年度		⑤終了予定年度		年度 ○ 設定なし							
⑥根拠法令等		○ 法令		条例		規則		要綱		計画等		その他		法令等の名称		下水道法	
⑦実施手法		直営		全部委託		○ 一部委託		補助・負担		その他							
⑧関連予算科目コード		款		2		項		1		目		1		細目		2	
⑨担当部名		上下水道部		⑩担当課名		下水道整備課								会計		下水道事業特別会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1) 対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 公共下水道施設		① 整備延長(累計)		m	
②		②			
(2) 事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
設計積算・交付申請及び、工事発注を行い適正な工事施工管理を行う。		① 整備延長(単年)		m	
		②			
		③			
(3) 意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
公共下水道の整備により、生活環境の改善、海や川の保全に役立つ。		① 下水道普及率		%	
		計算式		供用開始済人口／行政人口×100	
		②		計算式	
		③		計算式	
(4) 結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
公共下水道の普及率の向上を図る。					
(5—1—1—4): 河川やため池の水質汚濁防止に結びつく。		政策(章) 5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち			
		施策大(節) 2 活気にあふれるとともに快適で美しく、市内・市外がネットワークで緊密に結ばれ、だれもが使いやすいまちをめざします			
		施策中 4 下水道整備の推進			
		施策小 1 下水道の整備			

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	指標値の推移における特殊要因などの説明
対象指標①	整備延長(累計)	m	193,866	194,772	195,775	196,770	197,470	
対象指標②								
活動指標①	整備延長(単年)	m	855	905	1,004	994	700	
活動指標②								
活動指標③								
成果指標①	下水道普及率	%	55.8	56.9	57.3	57.3	57.7	
成果指標②								
成果指標③								
事業費	投入人員	人	2.20	1.80	1.75	1.75		事業費などの推移における特殊要因などの説明
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	事業費	千円	17,670	14,454	14,187	14,187		
財源内訳	人件費(投入人員*単価)	千円	221,642	243,077	136,847	319,903		平成30年度においては、工事請負費が減となった。
	直接事業費	千円	239,312	257,531	151,034	334,090		
	総事業費	千円	88,773	96,372	46,441	121,000		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	5,870	8,651	5,957	29,740		
財源内訳	受益者負担金	千円	144,669	152,508	98,502	183,216		
	その他特定財源	千円	0	0	135	135		
財源内訳	一般財源	千円						

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	社会・経済的問題として早急に対応する必要があったため、大阪府南大阪湾岸流域下水道事業の整備に伴い、未整備であった公共下水道の整備に着手した。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	公共下水道の整備により、普及率を上げ、河川等の水質保全を図る。今後については、未普及整備地区を事業計画に基づいて整備していく。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価 **A**

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	公共下水道整備事業は、汚水管を整備することにより、普及率の向上に結びついている。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	公共施設として市が設置、管理すべき施設である。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	河川の水質保全や公衆衛生上の問題など、下水道の役割や重要性が市民に広く浸透していることで、市民の下水道整備に対する理解が高まっている。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	公共水域の悪化につながる為、休止は考えられない。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価 **A**

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	事業認可取得毎に計画区域・人口の見直しを行っており、現実に合った計画に基づいて整備を行っている。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	事業認可取得毎に計画区域・人口の見直しを行っており、現実に合った計画に基づいて整備を行っている。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できますか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価 **A**

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費＋人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	—
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	受益者負担金を徴収している。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	—	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

A	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> - 重点化する(集中的なコスト投入) - 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) - 効率化する(コストを下げる) - 簡素化する(規模を縮小する) - 統合する(他の事務事業と統合する)	

①改革、改善の具体案、実施年度など	—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策	—